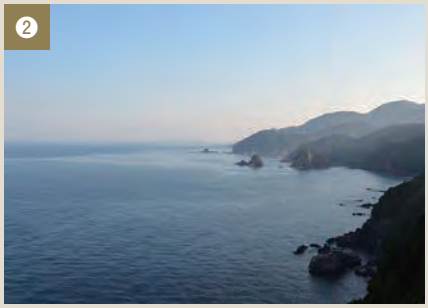
コロナ禍なれど天草の自然を楽しむ

松田光正
熊本県天草市・昭和60年卒



❶有明海から望む島原の普賢岳
❷天草西海岸から望む東シナ海
❸家人に内緒で購入したボート

鯛などを釣る

天草諸島は有明海と東シナ海にはさまれており，遠浅や急峻な海岸ありと変化に富んでいて獲れる魚種も豊富で毎日の食卓を賑わせてくれます。食する魚が美味しければ，「自分で魚を釣って食べてみたい」と思うのは人の常で10年ほど前に家人に内緒で船を購入しました。しかし，程なく港湾使用料の通知書で発覚することとなり「天気晴朗なれど家庭内波高し」となりましたが，家人のお小言はご想像におまかせいたします。件

松田先生からひとこと

昭和60年に卒業と同時に帰郷し，大学病院や開業医での勤務を経て祖父の代からの医院を継承しましたが，ふと気がつけば35年が過ぎ，昨年還暦を迎えました。臨床は卒業直後から故添島義和先生（昭和37年卒）が主宰されていた熊本デンティストミーティング（KDM）なるスタディグループで月２回の研修を現在まで続けていますが，昨今のコロナ禍でご他聞にもれず１年以上もオンライン例会ばかりとなり，天草での蟄居生活が続いています。したがって否が応でも休日は天草の自然を満喫せざるを得ないのですが，本稿ではそんな田舎歯科医のスローライフを綴ってみたいと思います。

❹3.5キロの鯛　❺鯛の押し寿司　❻イカ飯

の船は診療室から歩いても10分ほどの小港に係留し，週末はスタディグループの仲間たちと魚釣りを楽しんでいます。主には島原半島との間の早崎海峡で普賢岳を眺めながらのタイ釣りですが，活きエビではなくタイラバという疑似餌を自作して用いています。他にも季節ごとに，キス，アジやイカなど大物狙いよりも「夕餉のおかず」を好んで釣っています。さて，実は小生，歯周外科はできますが，魚のフラップ手術はできません。もっぱら家人頼みとなりますが，魚の種類や大小を問わず，いろいろな料理となって供してくれます。

ウナギや鮎を獲る

海の印象ばかりの天草で「ウナギや鮎を獲っています」というと大抵の方が驚かれます。特にウナギは近年99.9％が養殖だそうですが，小生，ここ数年天然物しか食していません。「なんと贅沢な！」

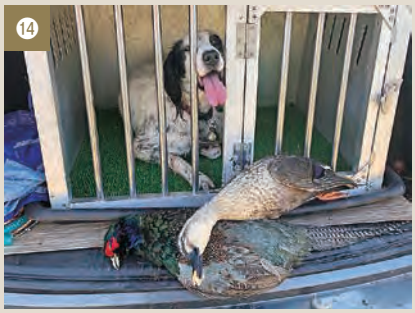
❼日が暮れてからの川漁師姿　❽昨シーズンの大ウナギ
❾ウナギ用特製まな板（といってもホームセンターの建材）

⑩天然鮎を七輪で焼く　⑪特大天然ウナギのうな丼

と言われそうですが，実は自分で獲りに行っているのです。夏の暑い盛りには早々と夕食を済ませ，暗くなるのを待ってからごそごそとヤスを片手に魚篭と懐中電灯をぶらさげ渇水した川へと向かいます。日中ウナギは岩陰や穴などに潜んでいて，暗くなると小鮎やエビを捕食するために出てきますが，それをヤスで突いて獲るのです。また時には腰高ほどの刺し網を川へ張って鮎も獲っています。天草の川は幅が狭く，大きな鮎は望めませんが一網に50尾程の鮎が獲れることもあります。帰宅後は寝入りばなの家人を起こし，蒲焼の下ごしらえをしてから就寝となりますが，翌日の診療には少なからず堪えます。さて，翌日は診療を少し早めに切り上げ，陽の明るい内から七輪に炭を熾して蒲焼きです。「お天道さまの明るい内から飲む酒は二割方旨い」といいますが，まさにその通りだと思います。ちなみにネットで「天草 天然うなぎの店」と検索してもお店は見つかりません。「自産自消」ですので…。

狩猟を楽しむ

20歳で船舶免許，24歳で歯科医師免許，26歳で狩猟免許を取得しました。祖父や父が昔から狩猟を楽しんでいたため，こちらも必然的に歯科医院とともに継承することになりました。対象がカモやキジなどの鳥猟ですので，わずか3カ月ほどの短い狩猟期間のため狩猟犬イングリッシュセッターを飼育して訓練もせねばなりません。



⑫愛犬とのカモ猟
⑬泳いでカモを回収してくるイングリッシュセッター
⑭キジとカルガモの猟果
⑮カモロース
⑯カモの炊き込みご飯

⑰50キロ程のイノシシ（大きいものは100キロクラスも）

近年はキジが激減し，カモ猟が主体となっていますが，ハンターが高齢化で減っているためカモの豊猟が続いています。一方ではイノシシが激増し，人口80,000人ほどの天草市で昨シーズン捕獲されたイノシシがなんと7,500頭というから驚くばかりです。もちろん小生のようなサンデーハンターにもときとして大物との出会いがあります。獲った鳥は自宅で調理していただきます。魚やウナギ同様にこれまた家人が羽毛むしりから調理までしてくれるのですからまったく頭が上がりません。歯周外科をやらせたらきっと小生より上手ではないか知らんと思うこともあります。ちなみにネットで「天草 ジビエの店」と検索してもお店は見つかりません。これまた「自産自消」ですので…。

最期に「歯恩の碑」について

最期になってしまいましたが，少しだけ「歯恩の碑」を紹介させていただきます。このコロナ禍が収束すれば，同窓諸氏もいろいろなところへの旅行を楽しまれることでしょう。近年ユネスコ世界遺産委員会で長崎と天草地方の「潜伏キリシタン関連遺産」が世界遺産に登録され観光客も増えてきましたが，同窓諸氏が天草にお見えになった際にぜひとも訪れていただきたいのが「歯恩の碑」です。天草郡市歯科医師会が歯の供養のために昭和44年に建立したものですが，碑銘，碑文を元日本学校歯科医会長の向井嘉男先生（大正３年卒），元熊本県学校歯科医会長の栃原義人先生（大正７年卒）が書かれています。建立以来毎年秋に天草郡市歯科医師会が歯牙供養祭を行い，抜去歯牙を納歯室に納めて祭文を奏上しています。市内が一望できる南公園という小高い丘の上にありますが，上下顎をモチーフとした石碑はなんとも愛らしく感じます。半世紀ほど前に東京歯科大学の大先輩方が「歯を大切にする思い」を込めて思案された碑文を読みながら歯牙への感謝を念じるも一興かと思います。ご来島の機会があれば観光や舌鼓の合間に是非とも立ち寄っていただきたいところです。

⑱歯恩の碑　⑲碑文